

会 長 挨拶



多賀城ロータリークラブ

会 長 菅 野 廣 志

本日ここに多賀城ロータリークラブ創立20周年式典を挙げるにあたりまして、ご多用中御臨席を賜りました、伊藤多賀城市長さん、仙台市宮城野区長さん、多数の御来賓の皆様、国際ロータリー第2520地区、新里幸三ガバナー、元R I理事、菅野多利雄先生、各パストガバナーの先生方、多賀城クラブ創立に御指導戴きました、仙台東ロータリークラブの皆様、姉妹クラブであります大韓民国江陵クラブの皆様、友好交流の高岡万葉クラブの皆様、地区内外のロータリアンの皆様、特に近隣クラブの皆様には、全員のご参加を戴きました。心より感謝と御礼を申し上げます。

多賀城ロータリークラブは、創立時には23名でスタートしました。「友愛と親睦」そして「会員増強」を目指して努力して参りました。長年の夢でありました、「会員50名」これを越え、52名で本日の式典を迎える事が出来ました。又、地域社会への奉仕、国際交流、青少年育成等の事業を推進して参りました。

社会奉仕につきましては、長年に亘って、継続的に社会福祉事業に協力致しました。国際交流につきましては、大韓民国江陵クラブと姉妹クラブ提携です。青少年奉仕につきましては、ロータリー旗争奪少年野球大会も今年度で第8回を数えるに至りました。その他、ロータリー綱領を遵守し、地味ではありますが、献身的な奉仕活動を重ねて参りました。これも偏に、諸先輩方々、又、地域の皆様の暖かい御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

当クラブも、この式典を一つの節目としまして、永遠なる世界平和と国際親善を目指し、30周年、50周年に、向けて努力するものであります。

ロータリーの永遠なる事を信じ、奉仕の理想の実現と、地域社会の発展のために、クラブ一同、総力を結集して参ります。

友愛と親睦を大切に、誠意と、品位ある、クラブになる事を念じ、行動して参ります。最後に、ご参会の皆さまの益々の御健勝を心からお祈り申し上げます、ご挨拶と致します。ありがとうございます。

挨拶



20周年実行委員会委員長 宮城東蔵

只今ご紹介にありました実行委員長の宮城でございます。一言ごあいさつを申し上げます。

本日は春爛漫の良き日に歴史のまちであり史跡のまちでもありますこの地多賀城市に於て、わが多賀城ローリークラブの創立20周年記念式典を開催いたしましたところ名誉会員であります、多賀城市長の伊藤喜一郎様をはじめ多くの御来賓そして遠くは姉妹クラブの国際ロータリー第3730地区大韓民国江陵ロータリークラブの皆様方、又同じく古くから文化と歴史を持ちしかも万葉の詩人友家持が取りもつ縁で高岡市の万葉RCの皆様方にも御参加をいただき本式典に花を添えていただいております。又地区ロータリー関係ではガバナーの新里先生、国際ロータリー元理事菅野先生、パストガバナーの諸先生方、そして岩手、宮城両県のロータリアンの皆様方多数の御参会を得まして奉仕の集いを兼ねた式典を盛大に開催できましたことは、誠に、ありがたく多賀城ロータリークラブ52名の会員を代表して心からの御歓迎と感謝を申し上げる次第でございます。

さて、我が多賀城ロータリークラブは1972年即ち昭和47年3月結成をみまして同年5月認承状の伝達をいただきました。時に会員は23名でありました。そして仙台東ロータリークラブのスポンサーで特別代表の偉大なるロータリアン今は亡き佐藤一雄先生の御指導のもとに発足したものであります。以来今年で丁度20年の歳月が流れました。

その間いろいろな事がございました。会員が減少した時のさびしさ苦しさ、又反面各種大会等の奉仕の集いに参加した時の感動、更には家族会での楽しいひととき、などなど今走馬燈のように思い出されます。又一方奉仕につきましたもクラブ奉仕をはじめ職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕等を中心にして活動を続けて、数々の実績を重ねてまいったところであります。

それにつきましてはいちいち申し上げる事を控えさせていただきますがほんの一例を申し上げますと、ここに国際ロータリー第3730地区大韓民国江陵ロータリークラブの皆様が

喜々としたお顔で御参加いただいております。この事でもおわかりと思います。

今大きな社会問題となっております国際化時代、すなわちこれはわがロータリーが掲げる国際奉仕であると私は確信するものでございます。ここで恐縮ですが江陵ロータリーの皆様方その場で御起立をしていただき晴れ晴れとしたお顔を会場の皆様方にお見せ下さい。ありがとうございました。

この姉妹クラブの誕生は国際ロータリー元理事菅野先生の御世話で12年前に結ばれた事をこの席より改めて申し添えさせていただきます。

今やロータリーは世界各地に120万を数えるロータリアンがおります。これらの人は創立者ポールハリスの教えである奉仕の心を継承しながら世界各国各地に於て奉仕活動に活躍されておりますことは皆様とくと御承知のとおりでございます。

尚わが多賀城ロータリークラブも先ず地元に着した奉仕活動を最重点課題として本式典のテーマを“史跡のまちに奉仕の光を”と銘打っていつまでも絶える事のない光を後世に引き継がせることをお誓いするものでございます。その他の奉仕活動の数々につきましては後日発行予定の20周年記念誌を御参照願えれば幸いに存じます。最後になりましたが、この式典を開催するにあたりクラブ会員52名が全員参加を合言葉に各委員会をつくり進行してきたところでありますが、何かと不行届きの点はロータリーの友情に免じましてお許しを願いたく存じます。

終わりに御参会の皆様の御健勝とロータリーの益々の発展を御記念申し上げまして挨拶といたします。

ありがとうございました。

祝 辞



国際ロータリー第2520地区

ガバナー 新 里 幸 三

この度、多賀城RCが創立されて20周年の記念すべき年を迎え、お祝いを申し上げます。
多賀城RCは1972年5月3日に国際ロータリーより承認され、ガバナー笹気幸助氏、スポンサークラブ仙台東RC、特別代表今は亡き佐藤一雄PG、初代会長は遠藤信五郎氏、幹事は三浦正義氏を中心に旺盛なロータリー精神に燃える会員諸氏により、各般に亘る奉仕活動が展開され、その基盤が確立されたのであります。

以来歴代会長を中心に、創立当時の精神を継承発展させ、数々の優れた奉仕活動の業績を挙げたひとに対し、改めて敬意と感謝を申し上げます。

今日迄その業績は目覚ましい活躍をしており、その中でも1980年6月28日、韓国江陵RCとの姉妹クラブ締結であります。過般、日韓親善会議が仙台で行われましたが、この会議の重要性も良く認識され、多くの会員の方々のご参加をいただきました。

又、ロータリー財団、ロータリー米山記念奨学会にも特段のご協力をいただき、PHF 19名、マルチプルフェロー2名、米山功労クラブとして多額の寄付をいただき感謝を申し上げます。去る4月18～19日の当地区の年次大会に於いて、多くの業績が評価されガバナー賞を受賞される等、我々ロータリー模範的クラブとして、地区内会員一同が周知の通りであります。

地域の奉仕活動も盛んで、史跡の町多賀城市に市の花である「山茶花」を毎年クラブ創立記念樹として市に贈呈、青少年非行防止野球大会の開催、チャリティー売上金を社会福祉協議会に贈呈等々、多くの事業を行っており地区内でも立派な実績で敬服のほかありません。

20周年と申しますと、20才の青春真直中と言っても過言ではありません。

今や世界は激変し、一年一昔とさえ言われるようになりました。このような時代にロータリーが生き抜く為には、多くの諸問題を抱えておる訳です。

今や肉体的年齢の時代は過ぎて、ただ単に年とっているから、単に古いロータリアンで

あると言うだけで、全てが通用する時代でなくなって来たと言うことです。これを重視しなければ、これからの変化に即応することができないのではないのでしょうか。

特にロータリーの存在価値を認めさせ、あるいはロータリアンになることによってどのようなメリットがあるか、それらを若い人達皆が認める様にならないと私はロータリーの将来は決して楽観出来ないと思います。

どうかその意味からも、新しい時代と即応するにはどうしたらいいかと言う事について十分ご検討下さいまして、地区内で立派なお手本を示して下さいれば、非常に有難いと思います。

20周年を心からお祝い申し上げますと共に、貴クラブの益々のご発展と新しいロータリーの在り方により、一層のご関心をいただくことをお願い申し上げますお祝いのことばと致します。

多賀城ロータリークラブ創立20周年記念を祝って



国際ロータリー

元理事 菅野 多利雄

本日、創立20周年をお迎えになられた多賀城ロータリークラブの諸君に心からお祝いの言葉を申し上げます。貴クラブは創立会員23名で発足し、20年目をむかえた現在、会員数は52名ということですが、この順調なご発展に心から敬意を表します。クラブの内容の充実はまず会員の増強にあります。29名の増強をなしとげられたことは驚くべきことといわざるをえません。勿論クラブ発足当初においては、どこのクラブも当面するような困難があったことと存じますが、その発展途上の起伏をよく克服されて、ここに文字通り輝かしい20周年をお祝いすることが出来たのは、会員諸君のひたむきなロータリーの奉仕の団結の賜と存じます。ポール・ハリスは「あの大河も一本一本の細い源流が野を越え、山を越えて合流し、本流となって大河を形成するのだ」と申しておりますが、クラブの奉仕活動も一人一人のロータリアンの奉仕活動が合流して、クラブの立派な活動となって、周囲の人に豊かさと潤いをあたえるものであります。したがいまして近年の貴クラブの素晴らしい奉仕活動も会員各位の個々の奉仕活動から生みだされたもの信じております。とくに貴クラブは早くから国際奉仕活動に進路をみつけられて、韓国江陵ロータリークラブと姉妹締結を結ばれました。私は幸いにもその媒介の役をつとめさせていただいたことは、私のロータリー生活のなかでも思い出多い1ページを飾ることが出来ました。その後会員各位が頻繁に江陵クラブを訪問して親睦と理解を深めて国際親善を推進され、また、江陵クラブからも度々貴クラブを訪問するなど、まことに姉妹クラブの実を上げられることは喜びにたえません。開店休業のような姉妹クラブ関係がみられるなかで名実共に成果をあげておられることはまことに賞讃に値するということが出来ます。

本日の記念式典にも姉妹クラブ締結当時の金会長、また同クラブ出身の1992～97年ガバナノミニー鄭氏などを始め多数のロータリアンとご夫人もご出席になられたことは、心から歓迎申し上げますと共にこの記念式典に更に錦上花を供えるものとしてお喜び申し上げます。これからはますますこの姉妹関係を通じまして、日韓両国の友好親

善のためにお互いに盡力されるよう希望してやみません。さらに本年から分割されて生まれる新生第2810地区の発展のために、貴クラブはその中核となって新しい地区づくりにご協力されることを期待いたしております。

終わりにになりましたが、本日の祭典にあたり、表彰されましたチャーターメンバーはじめ皆様に対しまして敬意を捧げますとともに謹んでお祝い申し上げます。また永年にわたりロータリー活動にご盡力いただいたことに対し深く感謝の意を表す次第でございます。

多賀城ロータリークラブ創立20周年記念式典にあたり心からお祝いの言葉を申し上げます。

祝 辞



多賀城市長 伊藤 喜一郎

本日、「多賀城ロータリークラブ創立20周年記念式典」が挙行されるに当たり、お祝いを申し上げる機会を得ましたことは、私のこの上ない慶びとするところであります。

日頃、多賀城ロータリークラブの皆様には、市政の発展に力強い御支援、御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

貴クラブは、昭和47年5月に発足されて以来、今日まで様々な活動を続けられ、20年の佳節をお迎えになられたのでありますが、その間、歴代会長を中心に社会福祉を始め、教育・文化の振興に深い理解を示され、多大なる御貢献をいただいておりますことは、誠に感謝にたえない次第であり、皆様方の清廉なる御厚意に対して心から敬意を表するものであります。

さて、本市も貴クラブの発足とほぼ時期を同じく、昭和46年11月に市政を施行し、昨年20周年記念式典を行ったところでありますが、顧みますと、当時、3万7千人余りであった人口も既に5万9千人を越え、道路、公園、教育文化施設といった公共基盤の整備も、他の市町村から羨望のまなこで見られる程に進展し、まさに宮城県の中核都市として着実に発展を遂げることができました。

これも偏に、皆様方の暖かい御支援、御協力の賜ものでありまして深く感謝を申し上げます。

遥か遠い未来と思われた21世紀も、9年を待たず訪れてまいります、多賀城ロータリークラブの皆様におかれましては、今後とも明るい社会づくりのため倍旧の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞

仙台東ロータリークラブ
会 長 千 葉 邦 房

おめでとうございます。

本日は御来賓の方々、又遠く韓国から、そして会員の出席のもとに20周年記念式典を挙行されます事心からお祝い申し上げます。

さて、私共仙台東ロータリークラブが親クラブとしてお世話させて頂くに当たり、特別代表に任命されました故佐藤一雄バスターガバナーの片腕として其の任を果たしました間宮直大会員ですが、此の席で御挨拶を予定していたのですが、体調思わしくなく私にメッセージを託してまいりましたので、代読させていただきます。

仙台東ロータリークラブ
間 宮 直 大

貴クラブ創立20周年記念式典に当ってのメッセージ

本日、貴クラブ創立20周年記念式典を挙げるに当たり、衷心よりお目出度うを申し上げます。

私も参上して御祝を申し上げべきところですが、近頃体調を崩し心ならずも、当クラブ会長にこのメッセージを託し御祝を申し上げざるを得ない状況でありますので、失礼の段平に御容赦賜りますようお願い申し上げます。

思い起こせば、今より21年前の3月頃のことと記憶致して居りますが、故佐藤一雄会員が世話人となり貴クラブの創設も企画致し、翌年一月に佐藤一雄氏が特別代表に選任され以後5・6回に及ぶ会議を重ね、当クラブ会員遠藤信五郎氏が初代会長に選ばれ昭和47年3月創立総会を完了し、同年6月にR Iの認証状伝達の運びとなり、252地区笹気幸助ガバナーのもとに輝かしき一頁を加えられた次第であります。

当初チャーターメンバー23名で発足した貴クラブが20周年を記念する今日、会員数50有余名と相成り、各種記念事業、姉妹クラブの締結、又市への社会福祉事業へのマイクロバスの提供等色々の面で立派な業績を挙げられて居りますこと、衷心より敬服申し上げ名前のみ親クラブとしても喜ばしい限りと存じます。

振り返ってみますと、貴クラブ設立の佐藤P Gも故人となられましたが、今日の20周年記念は是非とも参列して何かお話しをして頂きたかったと残念至極に存じますが、貴クラブの初代会長遠藤信五郎氏は御健康で御活躍中と聞き及び、大慶至極に存じます。今後益々御健在でクラブの為一旗も二旗も振って頂きたいと存じます。

終わりにになりましたが、貴クラブの益々の御繁栄と会員各位の御健康と御奮闘をお祈り申し上げます私のメッセージと致します。

20周年記念をお祝いして



初代会長 遠藤 信五郎

創立20周年記念に当たりまして心からお祝い申し上げます。

顧みますと当クラブは昭和46年故桜井、故佐々木パストガバナー及び故佐藤特別代表が新クラブ設立準備に入り翌昭和47年3月25日、23名のメンバーに依って設立されスポンサークラブの仙台東クラブの方々、或は物故されたパストガバナーのご援助に依って地域の奉仕活動に努め着実にロータリー綱領を実証し、若木から成木へ更に果実を以て輪の広がりをめざしている事は敬服の極みです。古い憶出としては昭和47年6月18日認証状伝達式には、県知事、市長、ガバナー、パストガバナー、地区内外ロータリアン、家族など700余名の参加を得て、盛大な創立式典が行われた事、或は設立当初の例会プログラム及び卓話を担当のメンバーが随分ご苦勞をなすった様子が浮かんで参ります。フォーラム（勉強会）には当時252地区は青森、岩手、宮城の為の八戸市、又は宮古市へ出向いて勉強するなど皆さん若く（平均年齢47歳～48歳）張り切って居りました。多賀城ロータリークラブ発足は多賀城市制と併行して居りましたので当時大場市長、或は現伊藤市長さんには何かと特別ご配慮を頂いた事が昨日の如く感じられます。私は昭和53年職業の変革の為退会致しましたが古い友人のご要望もあり、昭和60年5月パストサービスシニア会員として再入会盛り上がりつつあったクラブ活動にお手伝いさせて頂いて居った処、昭和63年11月不調を来し『脳内虚血、心不全、変形関節炎』入院加療の事となり退会の止むなき仕儀で残念でした。現在は幸い加療リハビリに依り概ね快復し、地元に於いて奉仕活動にご協力し時折生涯学習として、歴史、文学散歩やゲートボールなどを行って居ります。当クラブも永い年月には会員の減少、活動の停滞など危ぶまれた事も歴代の会長さんをはじめ設立以来在籍の8名の方々が中心に、更に有為なメンバーの参加を得て克服し、国際交流親善及びポリオブラスに貢献するポールハリス、フェローの増加を図るなどすばらしい活躍の姿を見て感激して居ります。どうか常に反省し、ますます結束して漸進発展する事をお祈りして20周年記念のお祝いのことばと致します。

祝 辞



国際ロータリー第3730地区

カンヌン
江陵RC・会長

ホン
洪

スン
淳

テ
泰

尊敬する地区ガバナー・菅野多利雄元RI理事・会長・会員の皆様・市長・来賓の皆様、
今日が多賀城RC創立20周年記念を真心から、お祝い申し上げます。

多賀城RCは、創立以来、歴代会長・役員、並びに会員の皆様が一致団結して崇高なる
奉仕精神で、その間なし遂げた輝かしい業績、地域社会の発展は、勿論、国際間の理解と
親善、そして、世界平和・増進努力に、多大なる功績を揚げその結果は、永遠に記録され
る事でしょう。

特に12年前、我、韓国江陵RCと、国際間姉妹結縁を締結、真に深い姉妹RCになりま
した。

10数回に渡り、相互訪問しながら親善を交え、友好を固め、ロータリアンとして、両国
間の平和増進に、大きな役割を果たした事に、深く感謝致します。

多賀城ロータリアンの皆様。我々は、やりがいのある友好を通じて、楽しい和合の追憶
を上台に、変わらない友情を基に前進し、新時代を創造し、世界で一番の祝福されるクラ
ブに成る事を確信します。

最後に会員の皆様の健康・ご家族の幸福と事業の繁栄が持続される様、祝願しつつ、皆
様の20周年記念祝賀の祝辞と致します。

感謝します。

多賀城のあらし

多賀城の名が歴史上に初めて現われるのは、宝亀11年(780)であるが、天平9年(737)には「多賀柵」の名が見えるので、多賀城の創建は奈良時代の初期と考えられている。従来、多賀城は蝦夷征伐の前進基地とされてきたが、実は東北地方の民政の中心である陸奥国府として創建され、奈良時代には北方軍司令部に当たる鎮守府も置かれていたことが、今日明らかとなっている。市内に新田の古代遺跡など古墳時代の集落跡が多いことや、多賀城最古の瓦が、宮城県北の田尻町や色麻町で製造されていたことは、その例証の一つである。

多賀城は、宝亀11年の伊治公牾麻呂の反乱で焼失したが、まもなく再現され、延暦21年(802)、鎮守府が坂上田村麻呂によって胆沢城に移された後には、国府の所在地として使われた。前九年・後三年の役には源頼義・義家父子の治所となり、文治5年(1189)の平泉藤原氏討伐の際には源頼朝が滞在している。また、建武中興の際には南朝方の義良親王(のちの後村上天皇)・北畑畠顕家の治所として歴史上に名をとどめているが、以降は除々に荒廃し、廃墟となっていった。

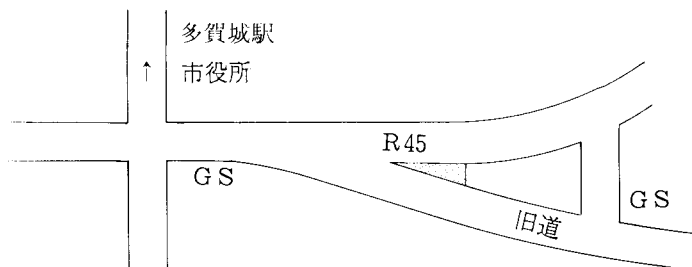
このような歴史上に名高い多賀城の名を残すため、明治22年に合併で多賀城村が誕生し、大正11年には、その遺跡が国の史跡に指定された。近年、「多賀城跡」は、奈良の「平城宮跡」、福岡の「大宰府跡」と共に、三大史跡と称され、昭和41年には国の特別史跡となった。

昭和36年以来発掘調査してきた多賀城廃寺跡は、すでに史跡公園として整備が完了し、多賀城跡も順次整備が進行している。

20周年記念事業

委員長 大場 定 男

- 社会福祉事業として「床ずれ防止エアーマット」4個及び車椅子2台を多賀城市と仙台市宮城野区役所に寄贈。
- 交通事故防止の奉仕活動として国道45号線と旧道の三叉路に標語入り三角看板（高さ5m）を設置する



20周年記念事業の一つ、交通事故防止看板設置

高岡万葉ロータリークラブと

多賀城ロータリークラブ

木村洋治

多賀城市は御存知のとおり歴史の古い町であり、古来より有名な人が数多く出入りしています。

万葉の歌人として高名な大伴の家持もその一人で征東將軍として多賀城に赴任して居り、この地で亡くなったと言われていました。

多賀城に赴任する以前に家持は富山の高岡に何年間か赴任しており、そこではかなりの数の和歌を残しています。それ故高岡の人達にとって、家持は大変身近な人であり彼の終焉の地となっている多賀城に対しても格別な親しみを感じているように思われます。

多賀城市では毎年「家持の夕」と称して「家持ファン集い」を催して居り、今年はその20周年にあたります。

今回家持に関しては大変造詣の深い尾竹女史の肝入りで高岡万葉ロータリークラブの岡本会長他多類の御来訪となり、3月には菅野会長他数名での答礼訪問となりました。

これから両クラブの交流が益々親密になるものに発展していくものと期待されます。



黄金神社訪問 1992年高岡万葉R.Cとオタカさん一行